

出版のご案内

2020年9月24日

作家・日本ペンクラブ会員
藤沢摩彌子

取材開始から13年。旧満州や全国各地を取材し、ずっと執筆に取り組んできた往年の大女優木暮実千代の評伝『絢爛たる女優-木暮実千代の生涯』、そして評伝に基づいてノンフィクションノベルとした『絢爛たる女優-小説 木暮実千代』二冊をAmazon kindleから電子書籍出版しました。価格は、各1800円(税込)です。また、電子書籍出版にとめない、このほど紙の本でもお読みいただけるよう、少数ですが印刷してお読みいただけるようにいたしましたので、ご案内させていただきます。(紙の本は各一部1870円(税込)の予定(送料別途))

往年の大女優・木暮実千代は、1918(大正7)年山口県下関市に生まれました。地元の名門ミッションスクール梅光女学院(現梅光学院)卒業後、父祖の地である東京へ戻り、日本大学芸術学部在学中に松竹からスカウト。女子大生女優第一号として銀幕デビューを果たし、生涯に350本以上の映画に出演するなど昭和を代表する美貌の大女優の一人となったことはつとに有名です。舞台女優への転進後にもその存在感は輝いていましたが、女優としてだけでなく、妻として母として生き、実業家としても成功するなど、まことにスケールの大きな女性でした。さらに、「マダムジュジュ」「サンヨー夫人」などでCM界を席巻。CM出演女優第一号としての功績も広告史に残っています。

一方、敗戦後、幼い子どもを抱えながら旧満州から辛酸をなめる思いで引き揚げてきた体験から、戦後恵まれない子どもたちへの惜しみない支援を72歳で亡くなるまで陰徳として続けるなど社会福祉に尽力。芸能人初の「保護司」としての活動も光ります。中国残留孤児来日時に肉親探しに奔走したのも、旧満州での苦しい体験からといわれています。

しかし、これらの社会福祉活動は、あまり世に知られていません。

2018年には生誕100年を迎え、本年2020年は没後30年という記念の年となりました。奇しくも木暮の人生に大きな意味を持つ「戦争」が終結して75年という節目の年にもあたっています。

この記念すべき年にダイナミックな昭和の歴史のただなかに生きた女優の知られざる愛ある生涯を描いた本を世に送り出すことは意義深いことと考え、個人出版いたしました。映画史を紐解けるばかりでなく、女優としての多忙な日常のさなか数十年もの間木暮が実践しつづけた「恵まれない人々への支援」を正しく伝えることは、東日本大震災を経験した私たちにとって貴重なお手本でもあるからです。また、木暮実千代の夫和田日出吉が、時事新報を皮切りに日本経済新聞の前身である中外商業新報の敏腕ジャーナリストとして「帝人事件」「2.26事件」をスクープした人物であることも重要です。和田はのちに満州新聞社社長となり満州映画協会常務理事として甘粕正彦の自決という局面にも遭遇します。昭和映画史のみならず激動の昭和史そのものを浮き彫りにすることで本書に厚みを持たせています。

木暮実千代の晩年は病魔との闘いでした。全身を病に蝕まれながらもいつもはなやかに明るく、大輪の花を思わせたという木暮実千代。一人の女優の生涯を描きながら昭和史を描き、人のために生きることの大切さを訴える本書を、一人でも多くの方に読んでいただければ幸いです。

■著者

藤沢摩彌子(ふじさわ まよこ) 作家・日本ペンクラブ会員

1954年岩手県生まれ。早稲田大学教育学部国語国文学科卒業。慶應義塾大学文学部美学美術史学科アートマネジメント講座、アートプロデュース講座修了(同講座は現在大学院に包含)。早稲田大学卒業後、聖マリアンナ医科大学第三外科学教室教授秘書等を経て、1991年(株)ジェイアール東日本企画に入社。著書に『アサヒビール大逆転 どん底時代をいかに乗り越えたのか』(文春ネスコ/文藝春秋)。同書は「文春文庫PLUS」としても出版、韓国語版も翻訳出版されている。2005年『近藤乾之助 謡う心、舞う心』(集英社)上梓。能楽宝生流シテ方近藤乾之助師の貴重な芸談聞き書きとして話題となる。2012年「木暮実千代の会」副会長、2019年顧問。2009年日本ペンクラブ会員。(本名は小野寺麻利子。(株)ジェイアール東日本企画時代は初期の東京ステーションギャラリー各企画展でオープニングレセプション司会を担当。JR局第五部部長代理としてJR東日本をクライアントとした「大人の休日倶楽部」、「世界遺産・平泉」関連業務などを遂行。在職中は上層部に許可を得て筆名で作家活動を行う。2015年退社後は作家専業として活動している。)